

CentreCOM™ LA-ISA

WindowsNT Version 4.0 NetWare Version 4.11J MS-DOSクライアント

CentreCOM LA-ISAシリーズイーサネットアダプターをご購入いただき、誠にありがとうございます。この文書は、「LA-ISA ユーザーズマニュアル」の内容を補足するもので、以下の内容が記載されています。

1. Plug & Play / Legacy モードについて	2
2. Windows NT Version 4.0	2
3. NetWare 4.11J クライアント (MS-DOS)	13
4. NetWare 4.11J サーバー	16
5. 本文書に関するご注意	16

本文書は以下の仮定のもとに記述されています。

- [1] ディスクドライブ名については、フロッピーディスクドライブを A:、インストール先ドライブを C:、CD-ROM ドライブを E: と仮定します。
- [2] Windows NT Ver.4.0 / NetWare Ver. 4.11J はご使用のコンピュータに既にインストールされているものとします。

1. Plug & Play / Legacy モードについて

本アダプターは「Plug & Play」と「Legacy」の2つのモードを持っています。ドライバーをインストールする前に、ご使用になるパソコンと（ネットワーク）オペレーティングシステムに適したモードに本アダプターを設定して下さい。これら2つのモードに関する詳細は「ユーザーズマニュアル」第3部「1 アダプタ設定のための準備」をご覧ください。

1 NetWare4.11J クライアントを Plug & Play に対応したパソコンでご使用の場合

「Plug & Play」モードでご使用下さい。本アダプターは工場出荷時には「Plug & Play」に設定されています。

さらに、パソコンの Plug & Play 機能を「有効」（または「enable」）に設定します。

2 Plug & Play に対応していないパソコンをご使用の場合、または NetWare4.11J サーバー・Windows NT 4.0 をご使用の場合（上記1に該当しない場合）

この場合は、本アダプター付属のアダプター設定プログラム「CFGISA.EXE」で「Legacy」モードに切り替えます。「CFGISA.EXE」の使用方法については、ユーザーズマニュアル第3部「2 アダプタの設定」をご覧ください。なお、CFGISAはMS-DOSの環境でご使用下さい。（Windows NTの「MS-DOSプロンプト」ウィンドウではご使用になれません。）

ドライバーのインストール後、本アダプターが使用するリソース（I/O ベースアドレス・インタラプト（= IRQ））はユーザーにより手動で設定します。

2. Windows NT Version 4.0

Windows NT Version 4.0にNDISドライバーをインストールする手順を説明します。ドライバーは、「LA-ISA ドライバーディスク」の「¥WINDOWS.NT」に置かれています。



Windows NTのハードウェア互換性リスト（Windows NTパッケージに同梱されています）に挙げられていないパソコン機種で本ドライバーをご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのパソコン機種で本ドライバーをご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象になりません。



ここに挙げた例は一例であり、お客様の使用するパソコンやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。予めご了承ください。



Windows NTのインストールを行ったあとで本アダプターをパソコンに取り付けてからドライバーのインストールを行うことをおすすめします。Windows NTはPlug&Playをサポートしていないため、Windows NTとドライバーのインストールを同時に行うと、Windows NTのインストール中に本アダプターが使用するリソース（I/O ベースアドレス・インタラプト）が他の拡張アダプターと重複するおそれがあり、重複の回避に手間取ることがあります。

2.1 インストールの手順（概要）

本アダプターを使用するための手順は以下の通りです。

1 本アダプターをコンピュータに設置します。

設置の手順は「ユーザーズマニュアル」第2部「1 本アダプタの組み込み」をご覧ください。

2 本アダプターをイーサネットに接続します。

接続の手順は「ユーザーズマニュアル」第2部「2 イーサネットに接続する」をご覧ください。

3 本アダプターが使用できる I/O ベースアドレス・インタラプト (IRQ) の値を確認します。

Windows NT は Plug & Play をサポートしていないため、I/O ベースアドレス・インタラプトの値をユーザーが設定しなければなりません。工場出荷時の値は I/O ベースアドレス = 0x300、インタラプト = 3 ですが、これらが他の拡張アダプターと重複している場合は別の値に設定し直す必要があります。ドライバーをインストールする前に値が重複していないか確認し、重複している場合は空いている値を調べ、手順 4 でその値に設定し直して下さい。

値を確認する手順は、次項「2.2 リソースの確認」をご覧ください。

4 CFGISA を用いてモード・I/O ベースアドレス・インタラプト (IRQ) の設定を行います。

モードを「Legacy」に設定します。（必ず設定してください。）

Windows NT で本アダプターをご使用になる場合は必ず「Legacy」モードに設定してください。（工場出荷時には「Plug & Play」に設定されていますのでご注意ください。）詳細は前ページの「1. Plug & Play / Legacy モードについて」をお読みください。



CFGISA は MS-DOS の環境でご使用下さい。

Windows NT の「MS-DOS プロンプト」ウィンドウではご使用になれません。

I/O ベースアドレス・インタラプト (IRQ) の値を必要に応じて設定します。

手順3の結果、I/O ベースアドレス・インタラプトの値の変更が必要な場合は値を設定し直します。設定可能な値の範囲は「ユーザーズマニュアル」付録 A「A.3 I/O アドレス」および「A.4 IRQ」をご覧ください。「CFGISA.EXE」の使用方法については、ユーザーズマニュアル第3部「2 アダプタの設定」をご覧ください。

5 ドライバーのインストールを行います。

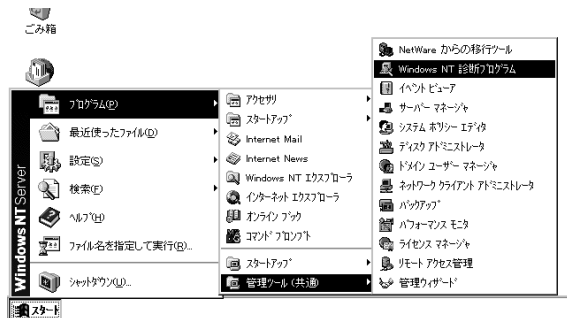
本書「2.3 NDIS ドライバーのインストール」にしたがって、インストールを行ってください。

2.2 リソースの確認

本アダプターが使用するリソース (I/O ベースアドレス・インタラプト (= IRQ)) の値を以下の手順にしたがって確認します。

- (1) 「スタート」「プログラム」「管理ツール(共通)」「Windows NT 診断プログラム」と進み、「Windows NT 診断プログラム」を起動します。

図 A



- (2) 「リソース」タブを選択します。最初に「IRQ(I)」の画面が表示されますので現在の設定 (工場出荷時は 03 に設定されています) が既に使用されていないか調べます。値が重複している場合は他の値に設定する必要があるので空いている値を調べておきます。設定可能な値の範囲は「ユーザーズマニュアル」付録 A「A.4 IRQ」をご覧ください。

図 B



- (3) 次に、「I/Oポート(T)」ボタンをクリックして I/O ベースアドレスの画面を表示します。同様にして値が重複しないか確認の上、必要なら空いている値を調べておきます。設定可能な値の範囲は「ユーザーズマニュアル」付録 A「A.3 I/O アドレス」をご覧ください。

図 C



2.3 NDIS ドライバーのインストール

ここでは、「アダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」^{†1}場合の本アダプター用ドライバーのインストール手順について説明します。また、ここではWindows NT Setupが要求する問い合わせに対して、基本的にはデフォルトで答えると仮定しています。

- (1) 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックしてください。「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。



図 1

- (2) 「マイコンピュータ」ウィンドウの「コントロールパネル」アイコンをダブルクリックしてください。「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。



図 2

- (3) 「コントロールパネル」ウィンドウの「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。図 3 のダイアログが表示されます^{†1}。「今すぐインストールしますか？」の問いに対して、「はい (Y)」をクリックしてください。

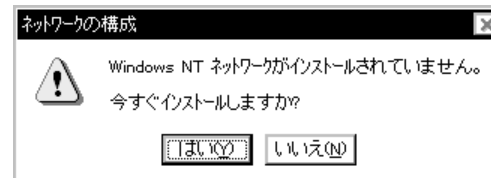


図 3

^{†1} 「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない (D)」を選択したとき、このダイアログが表示されます。

- (4) 「ネットワークセットアップウィザード」ダイアログが表示されます。「ネットワークに接続 (W):」にチェックマークを付け、「次へ (N)>」をクリックしてください。



図 4

- (5) 図 5 が表示されたら、「一覧から選択 (S):」をクリックしてください。

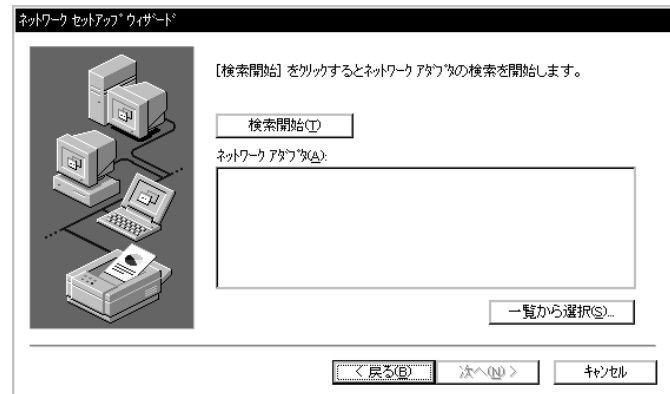


図 5

- (6) 本アダプター用のドライバーを選択します。

CD-ROM からインストールする場合

「ネットワークアダプタの選択」ダイアログで「Allied Telesis LAISA Adapter」を選択し、「OK」をクリックしてください。

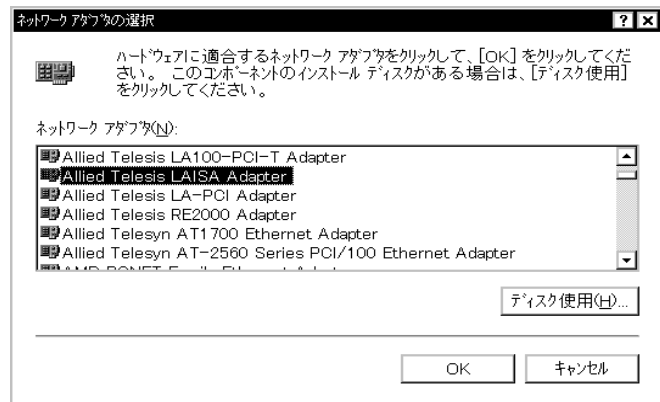


図 6

ドライバーディスク^{†1}からインストールする場合

図6(前ページ)の「ディスク使用(H)」ボタンをクリックしてください。

図7のダイアログが表示されますので、ディレクトリとして「drv:¥windows.nt」を入力し、「OK」をクリックしてください。ここでdrvは、フロッピーディスクのドライブ名です。

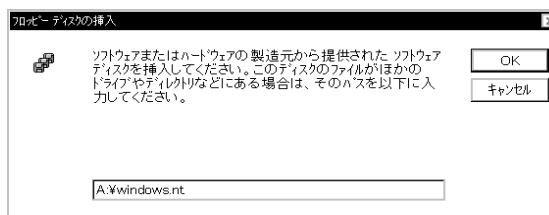


図7

「Allied Telesis LAISA アダプタ」を選択し、「OK」をクリックしてください。

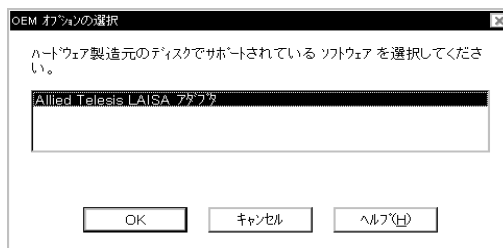


図8

- (7) 「ネットワークセットアップウィザード」の「ネットワークアダプタ(A):」の「Allied Telesis LAISA アダプタ」(または「Allied Telesis LAISA Adapter」, 以下同様)にチェックマークを付け、「次へ(N):」をクリックしてください。



図9

- (8) 使用するネットワークプロトコルにチェックマークを付け、「次へ(N):」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなプロトコルが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。ここでは、「TCP/IP プロトコル」のみをチェックすると仮定します。

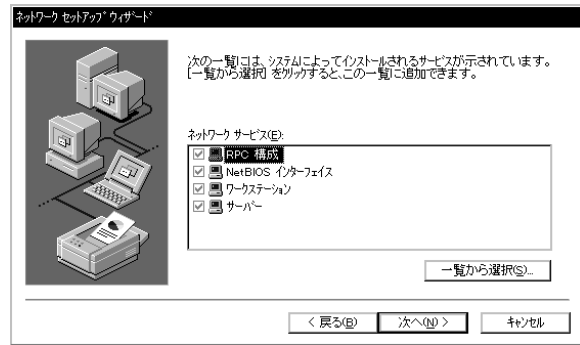


図10

†1 フロッピーディスクでの供給の場合、CD-ROMに含まれるドライバーよりも新しいものが提供されることがあります。最新のドライバーは、バグフィクスや機能の改良などがほどこされています。最新のドライバーの入手方法はユーザーズマニュアルの「最新ドライバソフトウェアの入手方法」をご覧ください。

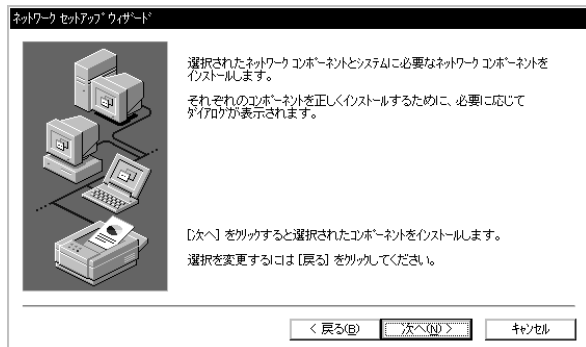
- (9) 使用するサービスにチェックマークを付け、「次へ (N):」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなサービスが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。

図 11



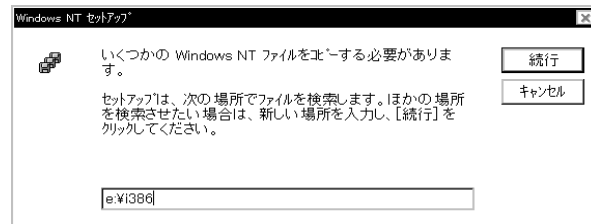
- (10) メッセージを確認して、「次へ (N):」をクリックしてください。

図 12



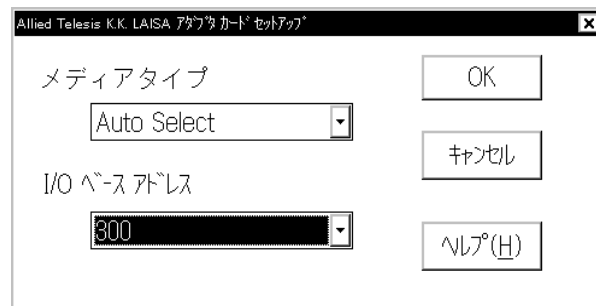
- (11) Windows NT のインストール元のディレクトリ「drv:\i386」を指定してください。ここで drv は CD-ROM ドライブのドライブ名です。

図 13



- (12) 続いて LA-ISA の設定画面が表示されます。「I/O ベースアドレス」に CFGISA で設定した数値を入力してください。デフォルトは 300 です。

図 14



続いて「パスワード」ダイアログが表示されます。「種類(T)」で「ISA」を選択し、「OK」をクリックしてください。

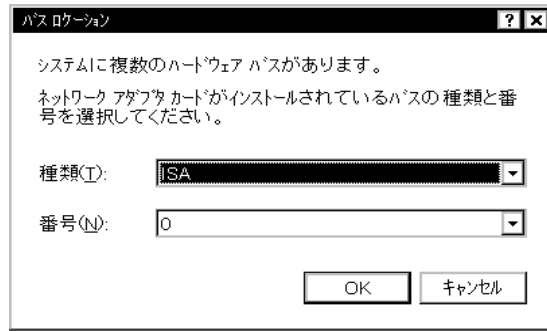


図 15

(13) コピーが始まります。



図 16

(14) 「DHCP を使用するか？」を質問されます。ここでは、デフォルトである「いいえ (N)」をクリックすると仮定します。

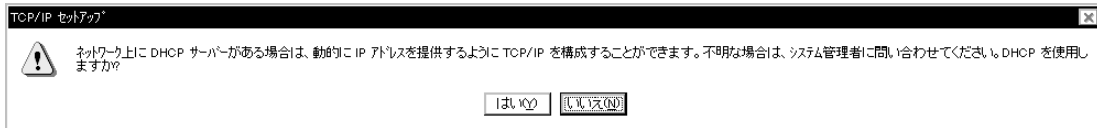


図 17

(15) (14)で「DHCP を使用しない」設定としたので、「TCP/IPのプロパティ」としてIPアドレスなどの値を設定しなければなりません。図 18 に入力例を示します。これらの値は、お客様の環境における値を入力してください。

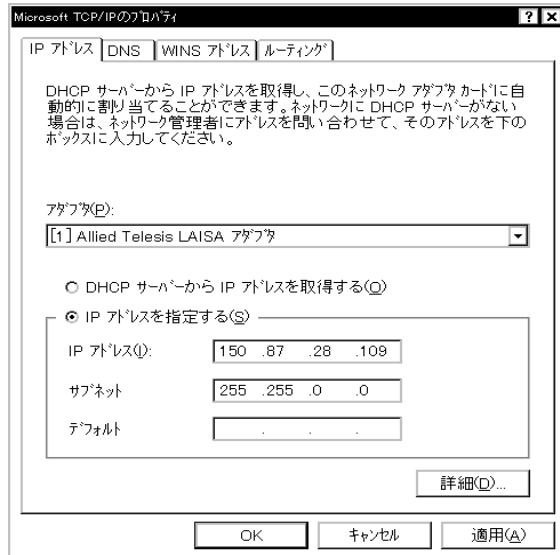


図 18

- (16) DNS (Domain Name System) の設定をします。「DNS」のタブをクリックしてください。図 19 に入力例を示します。ここでは、ホスト名として「view」を仮定しています。

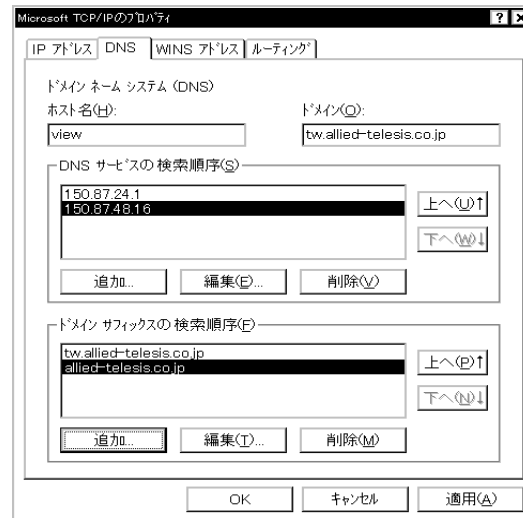


図 19

- (17) 続いて、「WINS (Windows Internet Name Service) アドレス」の設定を行います。右の画面では、「Windows 名前解決に DNS を使う (N)」を仮定しました。必要であれば、さらに「ルーティング」の設定を行い、最後に「OK」をクリックしてください。これらの設定の詳細についてはシステム管理者にご確認ください。

図 20 は Windows NT Workstation の場合の例です。Windows NT Server をご使用の場合はさらに「DHCP リレー」タブがあります。詳細はシステム管理者にご確認ください。

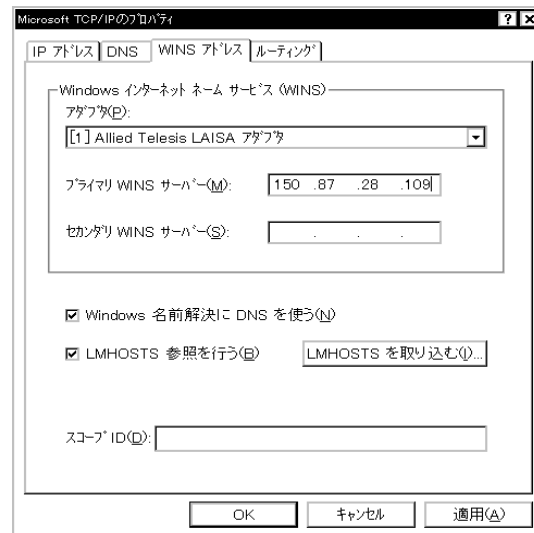


図 20

- (18) 「次へ (N)」をクリックしてください。



図 21

(19) 「次へ (N)」をクリックしてください。



図 22

(20) 「次へ (N)」をクリックしてください。
図 23 では、「ワークグループ (W)」をそのまま使用すると仮定します。



図 23

(21) 「完了」をクリックしてください。



図 24

(22) 「はい (Y)」をクリックし、パソコンを再起動してください。

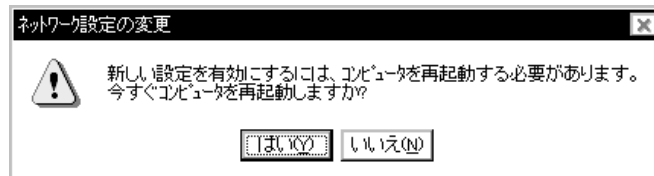


図 25

2.4 本アダプターのドライバーを削除する

- (1) 「マイコンピュータ」 「コントロールパネル」 「ネットワーク」とたどって行き、「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブをクリックしてください。
- (2) 「ネットワークアダプタ (N):」で「Allied Telesis LAISA アダプタ」を選択し、「削除 (R)」ボタンをクリックしてください。



図 26

ネットワークアダプターを削除しても、そのアダプターにバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません (一部の設定値、例えばTCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されます)。したがって、アダプターを再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

3. NetWare 4.11J クライアント (MS-DOS)

NetWare 4.11J の MS-DOS、Windows 3.1 クライアントのインストールにおける要点を説明します。インストール手順の詳細は、NetWare 4.11J のマニュアルをご覧ください。

[注] インストールでは、「クライアントフロッピーディスク」を使用すると仮定します (CD-ROM から直接インストールすることもできます)。「クライアントフロッピーディスク」は、NetWare の CD-ROM の「INSTALL」コマンドで作成できます。

準備と確認

1 **本アダプターをコンピュータに設置します。**

設置の手順は「ユーザーズマニュアル」の第 2 部「1 本アダプタの組み込み」をご覧ください。

2 **本アダプターをイーサネットに接続します。**

接続の手順は「ユーザーズマニュアル」の第 2 部「2 イーサネットに接続する」をご覧ください。

3 **本アダプターが使用するリソース (I/O ベースアドレス・インタラプト (IRQ)) の値は他の拡張アダプターと重複しないように手動で設定してください。**

設定可能な値の範囲は「ユーザーズマニュアル」付録 A「A.3 I/O アドレス」および「A.4 IRQ」をご覧ください。

ドライバーのインストール手順

(1) 「NetWare Client for DOS and MS Windows Disk 1」をフロッピーディスクドライブに入れ、下記のコマンドを実行してください。

```
A:¥>INSTALL
```

(2) 表示される質問に対して、メニューの番号を入力してください。質問項目は、以下の 3 点です。

- ・お使いのコンピュータの選択
- ・インストールするクライアントの選択
- ・時間に関する環境変数の設定

- (3) NetWareのインストーラが表示するメッセージにしたがい、表示されている項目 1.、2.、3.、4.の問いを決定してください。
- (4) 「5. ネットワークボードのドライバーを選択してください」を実行すると、「ドライバーディスクの挿入」を促す画面が表示されます。フロッピーディスクをLA-ISA ドライバーディスクに入れ替え、下記のディレクトリ名を入力してリターンキーを押してください。

A:¥>NETWARE.DOS¥NW411

- (5) 「CentreCOM LA-ISA」を選択し、リターンキーを押してください。
- (6) 「CentreCOM LA-ISA の設定」という画面が表示されます。以下の項目の設定が終了したら ESC キーを押し、この画面を終了してください。

Media Frame Type(S)

ご使用になるフレームタイプを選択してください。

- (7) 以後、インストールプログラムが表示するメッセージに従って操作してください。
- (8) インストールが終了し、DOSプロンプトが表示されたら、リセットスイッチを押してパソコンを再起動してください。

インストール結果

インストールが終了すると、NetWareクライアントの動作に必要なファイルやドライバー「LAISA.COM」がコピーされ、NET.CFG、STARTNET.BATが作成されます。NetWareのインストーラは、AUTOEXEC.BATに「@CALL drv:¥NWCLIENT ¥STARTNET」、PATHに「drv:¥NWCLIENT」、時間に関する環境変数「SET TZ=JST-9」を追加します（「drv:」はドライブ名）。

NetWareクライアントのインストーラに対して、デフォルトの項目を選択したときのNET.CFG、STARTNET.BATを示します。

NET.CFG

```
Link Driver LAISA
    FRAME Ethernet_802.2

NetWare DOS Requester
    FIRST NETWORK DRIVE = F
    NETWARE PROTOCOL = NDS BIND
    SHORT MACHINE TYPE = DOSV
```

STARTNET.BAT

下記に例を挙げます。

```
SET NWLANGUAGE=NIHONGO
A:¥NWCLIENT¥LSL.COM
A:¥NWCLIENT¥LAISA.COM
A:¥NWCLIENT¥IPXODI.COM
A:¥NWCLIENT¥VLM.EXE
```

手作業による NET.CFG の編集について

NetWare 3.11J や当社の CentreNET PC/TCP との共存環境の構築を行う場合は、「ユーザーズマニュアル」第4部の「3.1.1 NetWareクライアントのインストール結果 (NET.CFG)」をご覧ください。これらの記載内容は、NetWare 4.11J に対しても適用できます。

4. NetWare 4.11J サーバー

NetWare 4.11J サーバーのインストール手順は、4.1J サーバーの手順とほぼ同様です。「ユーザーズマニュアル」第4部の「3.3 NetWare 4.1J サーバー」をご覧ください。ここでは、注意すべき点についてのみ説明します。

項目「**ドライバーのロード**」は4.11Jでは項目「**追加ドライバーの選択**」となっています。ディレクトリは以下のようになります。ここでは、フロッピードライブをA:と仮定します。

A:¥>NETWARE.386¥411

5. 本文書に関するご注意

- (1) 本マニュアルは、アライドテレシス(株)が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス(株)が保有しています。アライドテレシス(株)に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- (2) アライドテレシス(株)は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。
- (3) アライドテレシス(株)は、改良のため製品の仕様を予告なく変更、改良することがありますのでご了承ください。
- (4) 本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

(C) 1997 アライドテレシス株式会社

Microsoft、Windows、MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

Novell、NetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。

この文書に掲載されているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

マニュアルバージョン

1997年03月

Ver.1.0 pl 0

1st release